

# 社3県内へ大拡販路

東北経済産業局は、石井製作所（酒田市）の稲作の省力化に向けた農業機械の販路開拓、奥山メリヤス（寒河江市）のニット製品のブランド確立、佐藤ぶどう酒（南陽市）のリンゴのワインの製造・

販売を、それぞれ地域産業資源活用事業計画として認定した。認定を受けた県内3社は専門家のアドバイスや低金利融資などを活用しながら、それぞれの計画を推進する。

## 経産局の事業計画新たに認定



代かきや種まきなどが同時に行える農業機械の試作品（石井製作所提供）

農機メーカーの石井製作所（石井正三社長）は、代かきと種まきとともに、土壌に種もみを埋め込む作業を一緒に行える農業機械の販路開拓を目指す。この機械は東北農業研究センター（盛岡市）などと共同開発。鳥害防止に必要とされる種もみの鉄粉コーティングが不要など、低コスト化と省力化を図ることができると見据える。来春の製品化を予定

す。複雑な目で見えにくい網目があり、型崩れしにくいのが特徴という。地元の紡績系、染工場などと連携し、付加価値を高めた商品を開発する。東京でバイヤー向け展示会を開き、百貨店やセレクトショップで販路を広げる計画。

## 石井製作所（酒田） 奥山メリヤス（寒河江） 佐藤ぶどう酒（南陽）



「BATONER（バトナー）」のニットセーター（奥山メリヤス提供）

し、需要が高まる飼料用米や加工用米の生産農家向けにアピールする。

ニットメーカーの奥山メリヤス（奥山幸八社長）は、立体的な造形技術のほか、超極細ゲージから太ゲージ系まで活用した自社製品「BATONER（バトナー）」のブランド

を、同計画の認定は県内で23件となった。認定を受けると、3～5年の計画期間内、専門家のアドバイスのほか、国の補助

金や、政府系金融機関による低金利融資などが受けられる。

